

「未来貢献 PROJECT」

挑戦問題 「ふるさとの未来のために、メッセージを伝えよう！」

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献

1 対象 第9学年A組 男子5名 女子12名 計17名

2 単元で目指す学ぶ姿

ふるさとの良さや課題を再発見し、未来に貢献するためのメッセージの発信を、創作劇づくりを通して協働して挑戦しようとする姿。

＜単元で生徒と共有する学びの姿を見取る資質・能力のルーブリック＞

	資質・能力	評価	評価基準	
			※「何ができるようになったか」で評価	
問題解決へ向かう探究の能力	知識・技能	知識 技能	S	戦後の呉の復興について知識や創作劇での知識や技能について、誇りや自信を持って、人に伝えることができる。
			A	戦後の呉の復興について学んだ知識や創作劇での知識や技能の良さを人に伝えることができる。
			B	戦後の呉の復興について学んだ知識や技能を人に伝えることができる。
			C	戦後の呉の復興について学んだ知識や技能を人に説明することができない。
	思考力・判断力・表現力	情報収集 判断	S	戦後の呉の復興について、尋ねたり、調べたり、試したりして、平和についての考え方を広げ深めることができる。
			A	戦後の呉の復興について、尋ねたり、調べたり、試したりして、必要なものを見付け、選び出すことができる。
			B	戦後の呉の復興について、尋ねたり、調べたり、試したりして、関係ありそうなものを見付けることができる。
			C	尋ねたり、調べたり、試したりすることができない。
	思考 表現	S	創作劇において、相手に思いが伝わるようなアイデアや方法を考え、自分の思いを表現することができる。	
		A	創作劇において、問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、自分のことばで表現することができる。	
		B	問題解決へむけてのアイデアや方法を考え、表現することができる。	
		C	問題解決へむけてのアイデアや方法を考えることができない。	
主體的・協働的に地域社会に 参画しようとする意欲と態度	学びに向う力・人間性	協力 協働	S	夢や疑問、できないことを大切にし、新しい自分やものを創り出すことができる。
			A	夢や疑問、できないことを大切にし、見通しを持って粘り強く学び続けることができる。
			B	夢や疑問、できないことを大切にし、学び続けようと努力することができる。
			C	できないことやわからないことをあきらめている。
	感謝 貢献	S	戦後の呉の復興を学んだ者として、自分の使命を自覚し、自分のこれからの生き方の目標を見付け出すことができる。	
		A	戦後の呉の復興を学んだ者として、これからの平和について、使命感をもって考えていこうとすることができる。	
		B	戦後の呉の復興を学んだ者として、自分の使命を理解し、果たそうと努力することができる。	
		C	自分の役割や使命を理解していない。	
	責任 使命	S	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かして全員が納得できる劇を作っていくことができる。	
		A	創作劇を進める中で、他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。	
		B	創作劇を進める中で、他の人と協力しようとして努力することができる。	
		C	他の人と協力しようとしていない。	
	挑戦 探究	S	文化活動発表会で劇を披露することで、地域の方や保護者に感謝・貢献の気持ちを表し、仲間や地域との絆を深めることができる。	
		A	文化活動発表会で劇を披露することで、感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献することができる。	
		B	文化活動発表会で劇を披露することで、感謝の気持ちを持って、自分なりに貢献しようとして努力することができる。	
		C	感謝の気持ちを持っていない。	

【評価方法】

生徒には、上記の資質・能力のルーブリックを適時示し、意欲を喚起させ、単元の最後の自己評価に教師の評価を加える。(授業観察, ワークシート)

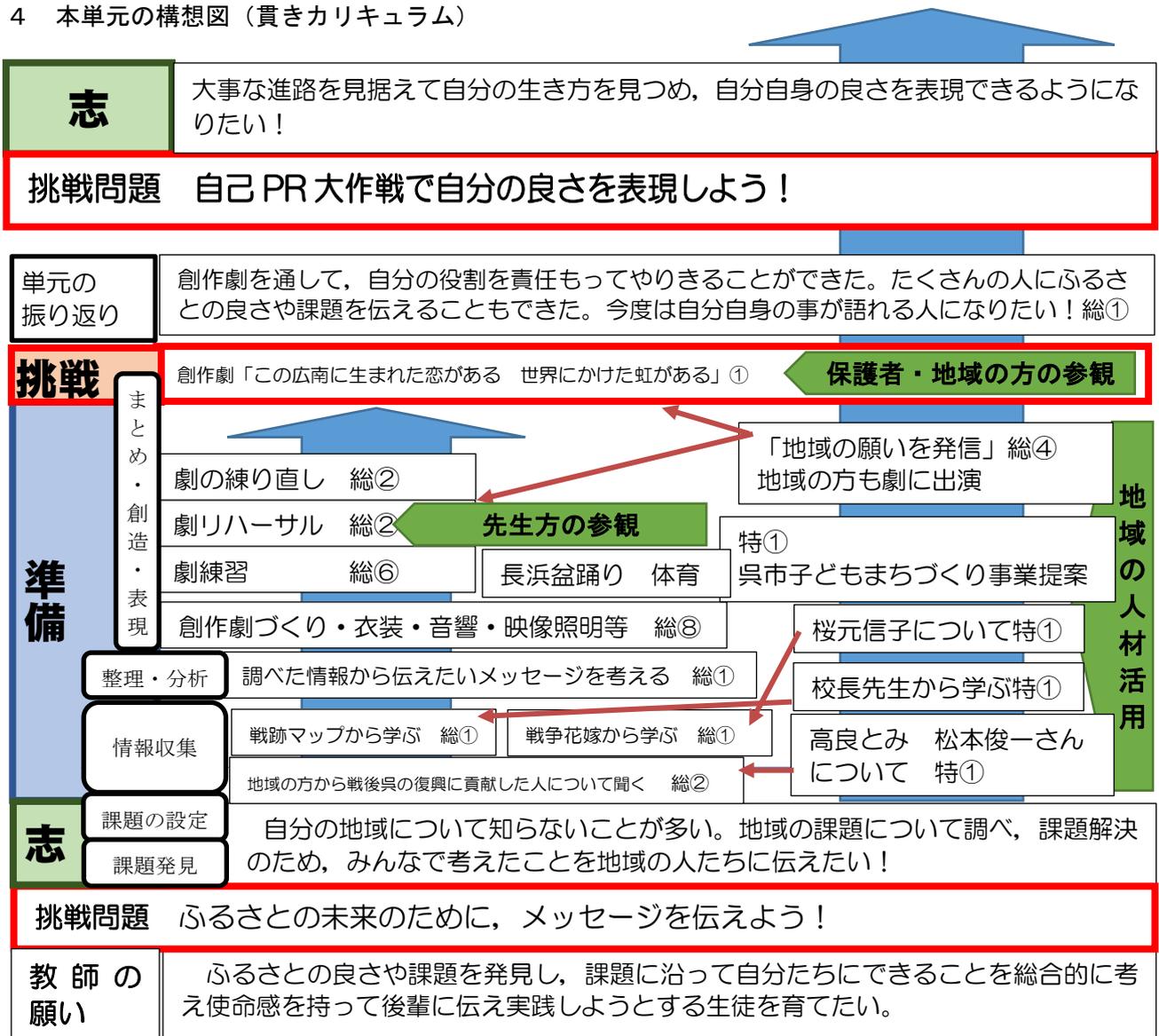
3 単元設定の理由

本単元は、「ふるさと学習」における、地域・未来貢献プロジェクトの集大成である。人口減少社会を迎えた今日、社会科においては広南地域の過疎化の問題、また理科においては、環境問題に触れている。これまでの学習を横断的に振り返るとともに、ふるさとの良いところや課題を再発見することで、将来起こるであろう地域の課題に沿って、自分たちにどんなことができるかを総合的に考え、実践しようとする態度を育てることを狙いとする。

創作劇に取り組むことは、誰もが責任を持って役割を果たさなければならない負荷があることによって、実社会における問題解決に取り組む態度である、責任・使命や協力・協働など学びに向かう力を育むことにつながると考える。17人という少人数での環境では、舞台に関わる準備については、そのほとんどを全員で取り組まなければならない。作業の一つ一つを自分たちで力を合わせ取り組んでいくことで達成感を味わわせたい。

さらに今年は、地域の方の協力を得て劇にも参加していただくことで共に地域の課題について考え、本当の意味での地域貢献につながるきっかけになると考える。

4 本単元の構想図（貫きカリキュラム）



5 本単元の指導計画（総授業時間数 17時間）

月	学習活動	時数	指導上の留意点・評価の視点・方法
8	<p>課題の設定</p> <p>STEP 1 「先輩たちの創作劇からどんなメッセージが伝わってくるか、劇をつくるために必要なものは何かを考えよう」</p> <p>○先輩たちの創作劇のDVDから学ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩の創作劇のDVDを見て、先輩たちのふるさとに対するメッセージを知り、自分たちはどのようなメッセージを伝えるべきかを考える。 先輩たちの創作劇の良さに気づく。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 先輩たちの伝えたかったことは何かを考える地域や未来についてのテーマを提示し、自分たちの使命を考えさせ、自分たちはどのような創作劇をつくりたいかを考えさせる。
	<p>挑戦問題</p> <p>「ふるさとの未来のために、メッセージを伝えよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ループリックでこの単元でつける資質・能力を確認する。 この地域へのメッセージとして、どのようなことが考えられるか課題とする。 		<p>★【挑戦・探究】</p> <p>ふるさとのために、創作劇を上演する意義を理解し、挑戦しようとする気持ちを持つことができる。</p>
	<p>情報収集 I</p> <p>STEP 2 「ふるさとの未来についてどのような問題があるかを調べよう」（地域で戦後の復興に尽力した人を調べよう）</p> <p>○地域で起こる問題にはどのようなことがあるだろうか。</p> <p>○地域の「過疎化」や「伝統文化」の問題は、どうなっていくのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれが情報収集する内容の分担を決める。 どんな情報を集める必要があるか、考える。 各グループで、項目立てを決める。 必要な情報を実際に集め、メモにまとめる。 創作劇に必要な役割分担も決める。任された仕事を進めていく際、どのような情報が必要か考える。 	3	<p>★【情報収集・判断】</p> <p>環境問題・地域の歴史についてさまざまな資料から情報収集し、ふるさとや自分たちの課題を考えることができる。（班新聞）</p>
9	<p>整理・分析 I</p> <p>STEP 3 「集めた情報をグループ新聞にして発表し、これから先、自分たちが取り組まなければならないことは何かを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた情報をもとに、自分たちの課題を考え、交流する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループの発表を聞いて、自分たちが取り組まなければならないことを発表し合う。
	<p>情報収集 II</p> <p>STEP 4 「課題を意識しながら、創作劇の準備をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 脚本に、自分たちの考えを入れ込み、物語を完成させる。 創作劇の作り方を学び、自分たちの役割を分担する。 	1	<p>★【協力・協働】</p> <p>舞台の準備について、必要なものは何か、アイディアを出し合ったり考えを出し合ったりできる。</p>

	<p>STEP 5 「それぞれの役割の中で、やるべきことを順序立て、準備をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署で、どのように仕事を進めるかを確認し、必要なものをリストアップする。 ・作業日程を決め、それぞれの部署で作業を始める。 <p>STEP 6 「創作劇の練習をしよう」「舞台装置を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝居を効果的に見せるために、どのような道具を準備して、どのように使っていくかを考える。 ・パートごとの練習を行う。 ・舞台装置製作の進捗状況を、全体で確認し、協働して作業する。 	<p>2</p> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創作劇のカレンダーを見ながら、自分たちで計画を立てる。 ★【知識・技能】 台詞を言うのではなく、その状況に即したコミュニケーションを表現するためにどのような工夫点があるか、考える。(振り返りシート) ★【協力・協働】 話し合ったりアドバイスをしたりして、効果的な表現にしようとしている。 舞台装置や音響など、協力・協働して作業をしている。(行動観察・振り返りシート)
<p>10</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: flex; justify-content: space-around;"> 整理・分析Ⅱ 新たな課題の設定 </div> <p>STEP 7 「先生方に見てもらい、必要な箇所を見直そう」</p> <p>○通し稽古をして、最後の確認をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通し稽古を先生方に見てもらい、アドバイスをもらう。その中で、改善点を見つけ、改善する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>まとめ・創造・表現</p> </div> <p>STEP 8 「本番 創作劇を上演しよう」</p> <p>○感想ボードの設置とアンケートを準備し、観客の人々に感想を書いってもらう。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>振り返り</p> </div> <p>(振り返る)</p> <p>○「単元で身に付けた資質・能力を振り返ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作劇を披露することで、地域の人たちを喜ばせ、メッセージを伝えることができたか、感動させることができたかについて振り返り、クラスで交流する。 ・ワークシートのルーブリックを見て、本単元で身に付けた資質・能力を自己評価する。 ・ワークシートを提出し、教師の評価を受ける。 	<p>2</p> <p>1</p> <p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち稽古ができれば、先生方に見てもらい、さらに工夫をしていく。 ★【責任・使命】 自分の役割を理解し、スムーズに練習ができるために何をしなければならないか等、自分の責任を果たしているか振り返る。 ★【思考・表現】 観客に伝わるように、効果的に表現の仕方を工夫している。(行動観察・振り返り) ★【感謝・貢献】 上演に向け、創作劇の意義を確認し、感謝の気持ちを持って上演することを確認する。(振り返り) ・感想ボードや自身の振り返りシートを見返しながら、ルーブリックの項目について自己評価を行い、自分の資質・能力の成長を確認する。

6 本時の学習（1時間目／全17時間）

(1) 本時の目標 DVDを視聴して、先輩方がどのような劇づくりを目指しているか、それを参考に
して、自分たちがどのような劇をつくりたいかを考える。

(2) 学習の流れ

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 資質・能力（★） （評価方法）
<p>1 課題意識を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 劇を伝えるために、必要なことは何だろう。 先輩たちの去年の創作劇を見て、先輩たちがふるさとのために伝えたかったメッセージは何か、どんな準備が必要か、考える。 <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒の気付き例</p> <ul style="list-style-type: none"> 何を伝えたいか。という内容。 どんな準備が必要かわからない。 </div>	
<p>めあて STEP1 「先輩たちの創作劇からどんなメッセージが伝わってくるか、劇をつくるために必要なものは何かを考えよう。」</p>		
<p>3 広南劇場で、上演すべき芝居とはどんなものか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先輩方の創作劇を見ながら、伝わってきたメッセージ、創作のために参考になったこと等、考えたことを記入する。 発表し、交流し合う。 挑戦問題を知る。 ループリックでこの単元に付ける力を確認する。 <p><挑戦問題の提示></p>	<ul style="list-style-type: none"> 先輩たちのテーマの設定の仕方を考える。 広南劇場を楽しみにしている人たちは、自分たちにどんなことを期待しているか考える。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒の意見の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の偉人のことを題材にしている。 自分たちの活動の成果を題材にしている。 全員で劇をつくっている。 </div>	
<p>挑戦問題「ふるさとの未来のために、メッセージをつたえよう！」</p>		
<p>4 良い創作劇にするために必要な要素を考える。先輩たちの良い点を交流する。</p> <p>5 自分たちが、今回の単元でどのようなメッセージを伝えたいか、思いを持つ。</p> <p><予習課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 次回は地域へのメッセージについて考えるので、どんな案があるか、考えてくること。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒の意見の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域への強いメッセージを入れたい。 声が大きく、はっきりしゃべっている。 全員で劇をつくっている。 先輩たちの思いが伝わってくる。 </div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒の振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちも先輩たちのような劇が創れるか不安だ。 地域の人に喜んでもらえる劇をつくりたい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ループリックを見て、今回身に付ける力を確認する。 <p>★【挑戦・探究】 地域の人のために、創作劇を創りたい、初めての劇だけどもがんばりたい、という思いを持つ。(振り返りシート)</p>

○授業後の生徒の変容

総合

第3学年

呉市立広南中学校

指導者 第3学年部

単元名

「未来貢献PROJECT」

挑戦問題 『ふるさとの未来のために、メッセージを伝えよう！』

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 情報収集・判断 思考・表現 挑戦・探究 責任・使命 協力・協働 感謝・貢献

期待される生徒の変容

文化活動発表会の創作劇において、自分たちが育ってきたふるさとの未来に貢献するための課題を設定し、課題解決へむけたメッセージを創作劇という総合的な表現活動を通して地域に発信することで、故里への社会貢献に向けた自分たちの志を確かなものにする。また、総合芸術と呼ばれる演劇による表現活動に取組むことを通して、これまでに習得した言語能力と情報活用能力を基盤として各教科で学んだ知識・技能を総合的に発揮し、協働してひとつのものを造っていく経験を通して、実社会における協働的な問題解決が能力を鍛えられることが期待できる。

平成30年度の取組より

Before 【初発（台本に初めて触れて）の生徒の振り返りより】

- ・自分の役は劇の中で重要です。人物の特徴をとらえて、その役になりきって頑張りたいです。
- ・やることがたくさんあってワクワクします。去年の起業企画での経験が生きそうです。ポスター作り、宣伝方法なども考えて劇の成功に貢献したいです。
- ・読み合わせをしてさらにワクワクしました。自分の役割に責任を持って取り組み、劇の成功に貢献したいです。英語のセリフだけ少し不安です。
- ・創作劇の最初にセリフを言います。とても重要な役割だと思うと不安だし、すごく緊張すると思います。本番に向けて台本を何回も読み込んでいきたいと思います。



After 【生徒の振り返りより】

- ・自分が目指した演技は「2つの役が同一人物とは思われない演技」でした。「謎の声」役では母にも「あんたがしとるとは思わなかった」と言ってもらい、歌う場面はいろんな人に良かったと言ってもらいました。しっかりした表現活動ができたと思います。
- ・「セリフを覚えてきなさい」「何を言っているのかわからない」「気持ちを込めて」「ニヤニヤしない」「動きをつけて」と演技に関して次から次へと要求ができました。この劇の成功のためにこの役を責任をもってやりとげるには、1つ1つクリアするしかないと思い頑張りました。
- ・今回の劇で戦争が終わった後の呉市の復興に力を注いだ偉人などの知識が身につきました。今こうやって当たり前のように生活して、生きていることは松本俊一さんをはじめとする偉人達のおかげだということがわかりました。
- ・練習の中でみんなで良いところ・悪いところを出し合って、互いに尊重し合うことによってこの劇をみんなで成功できたと思う。
- ・劇の実行委員としてBGMを考えたりやパンフレット作成に責任感を持ってしっかり取り組めたと思います。
- ・翻訳部でオーストラリアのこの劇の主役の桜元信子さんとメールでやりとりするのは大変だったけど今の大人数でうつつている今の家族写真が送られてきたときには本当に交信できていると実感しました。

